

「あたりまえにありがとう。」

奈良県 生駒小学校

4年 川崎 朝陽

ぼくは、駅のホームで急いでいました。ぼくと母が乗りたい電車はもう駅に着いていて、出発してしまいそうです。

駅のホームには、高校生らしい人が5人くらいいて、楽しそうにおしゃべりしています。ぼくの通りたいところで。もう間に合わないかもと、ぼくはあきらめかけました。すると、

「あ、すみません。」

ぼくが通ろうとしているのに気づいて、よけてくれました。ペコリとおじぎをして、通りぬけました。ぼくと母は、無事に電車に乗ることができました。ギリギリセーフです。

ぼくは、電車に間に合っただけで母に、

「あのお姉ちゃんたちが道をゆずってくれて、ありがたかったね。」

と言いました。母は、

「朝陽は、そう思うのね。」と言いました。ぼくは、

「あのお姉ちゃんたちは、やさしいと思う。」と答えました。母は、

「あんな場所にかたまっておしゃべりしていて、じゃまだ、よけてあたりまえだ、と思う人もいる。

でも、朝陽みたいにありがたいと思えた方が、うれしくなるよね。」

と言いました。ぼくは「なるほど」と思いました。

「ありがとうございます。」

と声に出してお礼を言えばよかったな、と後かいしました。

急いでいるとき、あせっているときなど、自分の思い通りにならないと、イライラしてしまいます。急いでいるので仕方がない、あせっているから許されるというのは、結局、自分勝手なだけだと思います。みんな自分さえよければいいと自分勝手を始めると、イライラしてギスギスすると思います。

ぼくは、そんなのは楽しくないし、いやだなと思います。みんながニコニコして、「ありがとう」を言い合える方が楽しいと思います。感謝する気持ちを持つと、自然に笑顔になります。

ぼくは、この日から「ありがとう探し」を始めました。すると、今まであたりまえだと思っていたことが、実は、「ありがとう」にあふれていることに気づきました。母がご飯を作ってくれる、姉がおかしを買ってきてくれる、友だちが遊びにさそってくれる。ぼくは、ぼくの身近な「ありがとう」にお礼を言うようになりました。言われた相手は、いっしゅん、びっくりした顔をして、それから笑顔になります。

あたりまえのことが、あたりまえにぼくの周りにあります。それは、決してあたりまえではありません。どんな小さなことでも、ぼくのことを思いやってくれた結果のあたりまえです。ぼくは、もっとあたりまえのことに「ありがとう」を言おうと思います。

あたりまえがあたりまえにあることに、「ありがとう」。